

# シリーズ= 地方創生に挑む!



第3回

## 広島信用金庫

### 「キャベツの増産事業」 支援の取組み

# 産地化を目指す生産者の 大規模栽培事業をサポート

## 出資先とパートナーシップ協定を締結し農業振興を目指す

# お

好み焼きに欠かせない  
具材の一つにキャベツ  
がある。特に広島風は  
キャベツをてんこ盛りに使うのが  
特徴。薄く伸ばした生地と鉄板で  
キャベツを蒸し焼きにすると、し  
んなりと柔らかくなり、甘味は何  
倍にも増す。キャベツからしみ出  
る旨味と食感、ソースと並び美  
味しさの決め手と言っても過言で  
はない。もちろん、キャベツはお  
好み焼きのほかにも、サラダや肉  
料理の付け合せ、洋風鍋など食材  
としての用途が非常に広い。スー

パーの定番商品でもあり、需要は  
大きい。  
瀬戸内海に面するなど自然環境  
にも恵まれた広島県の人口は28  
4万人(2015年・国勢調査速  
報)。中国最大の消費地である  
わけだが、農作物の供給は県内産  
の割合が低い。キャベツについ  
ては、お好み焼きで大量に使用さ  
れるにもかかわらず、県内自給率が  
7%にとどまる。

こうした中、地産地消を進める  
ため立ち上がったのが庄原市東城  
町の農業生産法人「Vegeta」(ベ

ジタ)だ。長年、水耕栽培を手掛  
けてきた同社は、2015年度か  
らキャベツの大幅増産に乗り出し  
た。広島信用金庫は、県のキャベ  
ツ増産計画の取組みとも連携し、  
この事業をサポート。関連会社の  
ひろしんビジネスサービスが運営  
管理する「ひろしん農業育成ファ  
ンド」が昨年4月に5000万円  
を出資した。

今回は、広島信用金庫が展開す  
る「アグリビジネス創出支援活  
動」を通じて地方創生の取組みに  
ついて、これまでの活動の経緯と

ともにベジタのキャベツ増産事業  
に対する支援内容などをレポート  
する。

### 地域の面的再生を目指し アグリビジネスを支援

広島県では、中国山地沿いの積  
雪地帯から温暖な島嶼部まで多彩  
な気候条件のもと、様々な農産物  
が生産されている。瀬戸内海の  
島々や沿岸部では、生産量全国1  
位のレモンやネーブルオレンジを  
はじめ、各種柑橘類の栽培が盛  
ん。また、くわい、トマト、アス  
パラガス、広島菜、わけぎなどが



県内の特産品として知られる。

中国最大の消費地である広島  
県だが、生産者である農家は大き  
な減少を余儀なくされている。特  
に広島県の場合、県土の7割を中  
山間地が占める。そのため、急傾  
斜地での作業負担の大きさから、  
近年、耕作を放棄する農家が増  
加。若者の農家離れも進み、農業  
就業者の平均年齢は70・2歳と全  
国で3番目に高い状況だ(201  
5年農林業センサス)。平野部と  
違い、農地の大規模化が容易では  
ないという課題も抱えている。

その一方で、国は骨太方針や成  
長戦略の中で農林水産業を成長産  
業にするため、2014年6月に  
「農林水産業・地域の活力創造プ  
ラン」を改訂して、新たな政策を  
打ち出すなど「攻めの農林水産  
業」を掲げている。TPPによる  
関税撤廃の動きもあり、いま農業  
を取り巻く環境は大きく変化。地  
域の基幹産業であるアグリビジネ  
スを活性化し、地方創生を実現し  
ていくには、これまで以上に手厚  
いサポートが地域金融機関に求め  
られているところだ。

こうした中、県内総人口の4割  
強を占める広島市など県西部を主  
要な営業エリアとする広島信用金  
庫は、従来から積極的にアグリビ  
ジネスを支援してきた。

「私どもがアグリビジネスの支援  
に本格的に乗り出したのは、20  
06年からです。前年に設立60周  
年を迎え、地域金融機関として地  
域の面的再生、持続的成長に貢献  
するには何ができるか、今後何に  
取り組むべきかを検討した中で、  
新たな事業分野としてのアグリビ  
ジネスの創出が不可欠と考えまし  
た。以来、食品関連企業と農家と  
のマッチングと、農家の生産性向  
上のサポートに特に力を入れて取  
り組んでいます」(新井浩詞・お  
客様サポート部 新事業サポート  
室・室長)

いまでこそアグリビジネスは成  
長産業の一つと考えられ、地方創  
生のカギを握る事業ともなってい  
るが、2006年当時はまだそう  
した考えは浸透していなかった。  
農商工連携の関連法が施行され  
たのも2008年7月だ。  
広島信用金庫では当時、60年と

いう業歴の中で、小売・飲食業な  
ど食品関連企業と幅広いネットワ  
ークを構築しており、そうした企  
業との取引の中で県内産の農産物  
のニーズが高いことを感じ取っ  
ていた。一方で、品質の良い農作物  
を生産している農家は多いもの  
の、年間を通じた安定供給のため  
には、中山間地にある農家の生産  
性向上が課題となっていた。  
こうした状況の打開に向けてス  
タートを切ったのが、広島信用金  
庫のアグリビジネス創出支援活動  
というわけだ。

### 地域貢献の一環として 屋上緑化にも取り組む

広島信用金庫がアグリビジネス  
の支援に向けてまず始めたのが、  
産(先進農家、広島県農工商連合  
会等)、官(広島県農林水産局、  
中国四国農政局等)、学(県立広  
島大学等)などとの強固なネット  
ワークの構築だ。農業分野に知見  
のある連携機関から講師を招き、  
2006年頃から勉強会やアグリ  
ビジネスセミナーなども多数開催  
している。